

# IMF サーベイ

G20 サミット

## G20 各国首脳、均衡ある成長と雇用の回復を目指す

IMF サーベイ・オンライン  
2010年6月27日



G20は、金融システムの改革について世界レベルで一層の進展が必要だと強調した。（画: G-20）

- IMF 専務理事、成長を支え財政赤字の抑制を図る G20 の措置を歓迎
- 専務理事、金融部門改革へのコミットメントが改めて表明されたことを評価
- G20、各国のニーズを勘案した「差別化された」アプローチを目指す

世界の主要な先進並びに新興市場国・地域首脳は、世界経済の回復の維持に向けた措置を支持すると共に、金融システムの強化と懸念材料である財政赤字の抑制を図りつつ、経済成長及び雇用創出の促進、並びに世界の一層の繁栄に向け協働することを表明した。

6月26、27日の両日にわたり、カナダのトロントで開催された[20カ国グループ](#)（G20）サミットに出席した各国首脳は、回復の現段階での状況の評価を行なうと共に、危機の社会的影響が依然として広く散見できるとして、回復を維持するための措置について合意した。世界的景気後退からの回復は、依然としてばらつきがあり脆弱であることから、G20は回復を支え一層強固なものとするのが最優先課題だとした。

各国首脳は、成長を支え、力強い持続的回復を実現するための包括的な行動計画の策定に取り掛かり、その最終案については次回の11月のソウル・サミットで合意すると決定した。国際通貨基金（IMF）のドミニク・ストロスカール専務理事は、このイニシアチブについて「今後大きな期待を抱かせるものだ」と評価した。IMFは、G20に世界経済の成長の促進に関する分析を提供しており、いわゆる[相互評価プロセス](#)の第二段階を引き続きサポートするとしている。

### 差別化されたアプローチ

世界経済の回復のペースは国により異なっていることから、G20は各国政府が自国の状況を踏まえた対策を講じる余地を残した。G20首脳は[声明](#)の中で、「深刻な財政上の課題を抱える国は、財政再建のペースを加速する必要があるが、世界の経済成長の持続性を今後も確保するために、世界需要の再調整の取り組みと連携して行う必要がある」と指摘した。

IMF及び世界銀行の分析を基に、G20は、改革をより大胆に推し進めることで、世界の成長を大きく押し上げる可能性がある」と述べた。G20は声明の中で、このシナリオに沿うことで、5年間で以下が期待できるとした：

- 世界の産出高を約4兆ドル押し上げる

- 数千万の雇用を新たに創出する
- より多くの人々を貧困から救出する
- 世界の不均衡を大幅に縮小する

IMFはトロントで、相互評価プロセスによる成長促進のためのシナリオの**評価**を提示した。同プロセスは、より強固な成長を世界レベルで実現するために、各国の経済プログラムの相乗効果を高めることを図ったものである。なおIMFは、最新の世界経済成長の見通しを、7月8日に香港で発表する予定である。

ストロスカーン専務理事は、失業率を改善し巨額な公的債務を削減するには、より強固な成長が不可欠だと述べた。

IMFは、G20の相互評価プロセスは、成長に向けた課題の解決が期待されるメカニズムだと述べた。同プロセスでは、以下3分野における行動が必要だとしている。第一に、先進国の財政再建が不可欠である。これは、回復が依然として脆弱であることから、現実的な財政計画を、大半の国では2011年の開始を目標とするなど、早急に実施することを意味する。第二に、経常黒字国は、ソーシャル・セーフティ・ネットへの支出や、インフラの改善、更には為替相場の柔軟性の向上などを図り、内需を拡大する必要がある。第三に、特に先進国において、構造改革すなわち成長を押し上げる製品・労働市場の改革、及びその結果好転した経済を持続させるための金融部門の改革が不可欠である。

またG20は声明のなかで、巨額の財政赤字の削減のための公的支出の抑制に向けた取り組みは、回復を妨げることがないように「慎重に調整」されたものでなければならないと指摘した。ストロスカーン氏は「財政再建或いは成長かという問題ではなく、財政再建及び成長ということだ」と述べた。

サミットの後の記者会見で同氏は、G20 各国首脳は「世界需要の再調整など、IMFの分析及びIMFが推進するアプローチをこれまで以上に活用している。これは、マクロ経済上の措置において連携を一層高めたいとする政治的意思の表れであり、また連携に関する世界レベルでの協議を促進する共通の言語、アプローチ、及び分析を活用するという双方の観点から、歓迎すべきことである」と述べた。

### 金融部門の改革

G20首脳は、金融部門の再建と改革の面で一層の進展が不可欠だと述べ、改革の主要な柱として以下の4項目を示した：

- **強固な規制の枠組み**。改革が完全に実施された場合、銀行は、これまでと比較し質・量共に非常に高い資本を所有することが求められる。

- **実効的な監督。** 規制の強化は、より実効的な監視と監督により補完されなければならない。G20は、[金融安定理事会](#)に対し、IMFと協議の上、監督機能の強化並びに危機の早期解決に向けた提言を策定するよう要請した。
- **窮地にある金融機関の破たん処理。** 「国民に最終的に負担を負わせることなく、危機的な状況にある全ての金融機関の再編或いは破たん処理を行なう権限及び手段を、我々が有する制度の策定並びに導入に尽力する」
- **透明な国際的評価及びピア・レビュー。** G20はIMF及び世界銀行による[金融セクター評価プログラム \(FSAP\)](#) に対するコミットメントを強化した。

ストロスカーン氏は、[監督](#)機能が重要視されたことを歓迎し「適切な監督の枠組みが導入されなければ、金融部門の改革において何事も為していないに等しい」と述べた。

また各国首脳は、昨年9月のピッツバーグ・サミットの宣言を再び確認した。さらに、世界的な金融危機の間に行なわれる銀行の救済或いはてこ入れなど、政府介入に伴う負担の分担において、金融部門が公平且つ大規模な貢献を行なうための施策に関するIMFの報告書を検証した。各国首脳は、銀行への課税を含めた様々な戦略を導入することができるだろうと述べた。

### IMF ガバナンスの強化

ストロスカーン氏は、[ピッツバーグ・サミット](#)のコミットメントに沿い、IMFの[クォータ \(出資割当額\) の改革](#)を、他のガバナンス改革と平行しながら、11月のソウル・サミットまでに完了させるために作業を加速化させるとしたコミットメントをはじめ、IMFへのG20の支援を歓迎した。

ストロスカーン専務理事は、「本日のコミットメントは、IMFの正当性と信頼性を向上させるものだ。ソウル・サミットまで依然として多くの課題が残っている。2008年のクォータ並びにボイス (投票権) の改革への合意の批准に対するコミットメントは実現されねばならず、新規借入取極 (NAB) の改革は完了されなければならない。さらに、新たな一連の改革を実施するうえで困難な作業が待ち受けている。しかし私は、IMF加盟国は果敢に課題に立ち向かうと確信している」と強調した。